

## ◆平成一七年度「学生を育てる」視点からの学生支援事業」学生対応研修会開催報告

主催団体…独立行政法人日本学生支援機構 広島支部  
 後援…教育ネットワーク中国  
 協力…広島学生相談研究会、広島大学、広島国際学院大学  
 開催日時…平成一七年一〇月二五日（火）～二六日（水）  
 会場…広島国際学院大学立町キャンパス



基調講演風景

「教職員すべてが学生一人一人を育てる」をコンセプトに、今回は「多様化する学生気質と学生対応」をテーマとして開催した。広島支部の主催事業としては初めての企画であったが、多くの高等教育機関教職員の方々に参加いただいた。基調講演では、九州大学高等教育総合開発研究センター（学生生活・修学相談室 常任

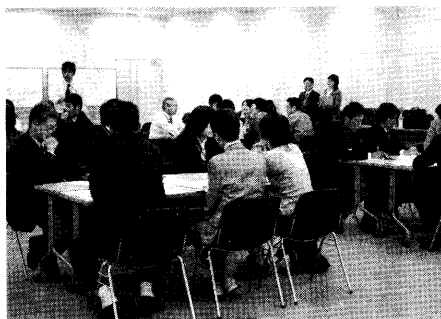
相談員）吉良安之教授に、「現代学生の捉え方と教職員に求められること―学生を理解し育てるために―」と題して講演いただいた。

演習では、広島大学保健管理センター内野悌司助教授を中心に、広島経済大学学生相談室森田裕司助教授、広島大学保健管理センター品川由佳助手をファシリテーターに迎え、これまでの学生対応での課題・問題点の洗い出しを行い、ロールプレイを基にした事例検討や、森田助教授によるミニレクチャーを行った。

参加者の意識の高さにより、熱心な議論が繰り広げられた。

## ◆北海道・東北地区メンタルヘルス研究協議会

主 催…国立大学法人保健管理施設協議会、独立行政法人日本学生支援機構、国立大学法人北海道大学  
 協 力…文部科学省



演習風景

開催日時：平成一七年一月二四日（木）～二五日（金）  
 会場：北海道大学学術交流館  
 参加者数：七五名

「マ」ごとに活発な意見交換・討議及び体験学習を行った。  
 なお、各分科会のテーマは以下のとおり。  
 第一分科会「高専におけるメンタルヘルスの現状と課題」  
 第二分科会「学生相談の第一歩」  
 第三分科会「学生の個性と不適応のタイプ」  
 第四分科会「女子学生・院生の抱える問題」  
 第五分科会「学生支援・相談担当教職員のはたらきの実践  
 ―ロールプレーを交えて―」  
 第六分科会「事例研究を中心に」。

共通テーマは「変革期を迎えた大学運営とメンタルヘルス」。  
 一日目は弘前大学佐々木大輔保健管理センター所長による「メンタルヘルスからの高等教育への提言（二〇〇五）をめぐって」及び北海道医療大学の坂野雄二教授による「キャンパスにおけるメンタルヘルス相談活動に生かす認知行動療法の発想」と題した講演に始まり、その後六分科会に分かれてテ

会報告が行われた。



大浦理事講演風景



坂野教授講演風景

◆近畿地区メンタルヘルス研究協議会

主 催：国立大学法人保健管理施設協議会、独立行政法人日本学生支援機構、国立大学法人神戸大学  
 協 力：文部科学省  
 開催日時：平成一七年二月一日（木）～二日（金）  
 会 場：神戸大学神大会館・瀧川記念学術交流会館  
 参加者数：五九名  
 共通テーマは「変革期を迎えた大学運営とメンタルヘルス」。

◆祖師谷国際交流会館 芸術祭

～第五回トライアングル・フェスタ～開催報告

主 催：日本学生支援機構東京支部（祖師谷国際交流会館）  
 上祖師谷まちづくり出張所、上祖師谷はる児童館  
 日 時：平成一七年一月二三日（日）  
 会 場：都立上祖師谷公園（メイン会場）、祖師谷国際交流会館

参加者数：約一〇、〇〇〇人。

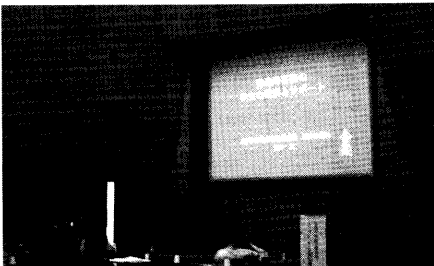
祖師谷国際交流会館（東京支部）、上祖師谷はる児童館、上祖師谷まちづくり出張所の三団体がメインになり企画している。今年で一三回目を迎え、この成城・上祖師谷・砧地区では、なくてはならない地域住民の交流の場となっている。

前日の二二日は、地域の幼稚園、小学校の子どもたち約三〇〇人が仮装をして来館し、翌日の祭を手話歌で本会館の留学生に伝えた。留学生代表としてオーストラリアの原住民の楽器による演奏も交え、和やかな時間を過ごした。

当日は、メイン会場にて三団体の代表による開会の挨拶があり、小学生、中学生の舞踊、和太鼓等が披露された。祖師谷国際交流会館は「芸術祭」と称し、留学生が中心となってトライアングル・フェスタの一員として参加し、地域住民、ボランティア団体との交流の輪を広げた。



藤田理事講演風景



講演会風景

一日目は神戸大学の田中究講師による「発達障害圏の学生の理解とサポート」と題した講演に始まり、その後三分科会に分かれてテーマごとに活発な意見交換・討議及び体験学習を行った。

なお、各分科会のテーマは以下のとおり。

第一分科会「トラウマ及び不登校について」

第二分科会「メンタルヘルスに関する大学内の連携」

第三分科会「ハラスメントについて」

二日目は一日目に引き続き分科会、続いて全体会で各分科会報告が行われた。

この芸術祭では、国際レストラン、パフォーマンス、日本文化紹介を企画した。国際レストランでは一四チームが参加し、各国の特色ある手作り料理を来館者に味わってもらい、パフォーマンスでは、各国の踊り、歌、ファッション・ショー等で、住民各層との交流を深めた。日本文化紹介では、ボランティアの方々が生花、茶道、書道、琴、空手といった日本古来の伝統美を実演した。

### ◆駒場地域秋季交流会

主 催…日本学生支援機構東京支部（駒場国際交流会館）

日 時…平成一七年一月二三日（水）

場 所…駒場国際交流会館

会館祭のオープニングセレモニーとして「我楽」による和太鼓の演奏で賑やかに開催された。

「世界の味を堪能！ 世界各国のグルメが集う」と題して、タイ・アルゼンチン・メキシコ・中国・マレーシアなどの会館生による出身国の模擬店も数多く出展し、母国の自慢料理を披露した。

中庭には会館生によりモンゴルのパオが張られ、来訪者は中に入り、束の間のモンゴルを体験した。

館内ではフィリピン他八か国の留学生による自国紹介の展

示があり、来訪者に説明を熱心に行っていた。茶道体験ゾーンでは着物姿の留学生のお点前によるお抹茶が振舞われた。

また、会館生と目黒区立第七中学校・目黒区立第一中学校との国際理解教育として行われた留学生交流は、感想文・写真等が展示された。

MPホールでは國學院大學体育連合会吹奏楽部による演奏をはじめ、会館生のギターの演奏や歌の披露、民族衣装によるファッションショーが行われた。着衣の説明もあり、各国の習慣や民族性の違いが分かりやすく紹介された。

### ◆第三九回落合祭「愛・落合博」開催報告

主 催…日本学生支援機構東京支部（東京国際交流会館）

日 時…平成一七年一月二七日（日）

場 所…東京国際交流会館

第三九回落合祭は「我楽」による和太鼓の演奏で始まった。さまざまな国の料理が並んだ模擬店の前では、マレーシアから参加した数十名の中高生による伝統的な舞踊や、その他数か国の楽器演奏等が披露され、訪れた方々と会館生たちが一緒に踊る場面も見られた。模擬店No.1を決定するイベントもあり、今年はラオスの春巻きが優勝した。

別室では、落合祭恒例の餃子教室が開かれ、近所の方々や子どもたちが数多く参加した。皮から手作りする水餃子は毎

年好評で、会館生たちは粉にまみれながら、一生懸命本場中国の餃子を作った。卓球大会は、屋内のイベントにもかかわらず、たくさんの方が参加があり、内外部の腕自慢がトーナメント方式で競い合った。縮めの阿波踊りでは、長く日本に住んでいても、阿波踊りは初めて見たという会館生も多く、一緒に踊ったり、写真を撮ったりしていた。

地域の方々との交流を深め、いろいろな国の文化に触れることができた有意義なイベントであった。

### ◆国の行政機関で独立行政法人日本学生支援機構が初めて日本の大学等における障害学生数を調査

日本学生支援機構は、平成一七年五月に全国の大学、短期大学、高等専門学校（以下「大学等」）の計一、一一五校（回答校数…一、〇〇九校、回収率…九〇・五％）を対象に、障害学生の修学支援に関する実態についてアンケート調査を実施した。

本調査は、全国の大学等における障害学生数を国の行政機関で初めて明らかにし、障害学生に対する支援体制等を詳しくとらえているのが特徴。大学等における障害学生の修学支援の実態を全国規模で実施した本格的な調査となっている。

今回確認できた主な障害学生の修学支援の実態

図1 障害学生在籍数（障害別）

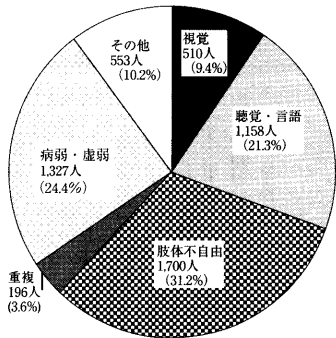
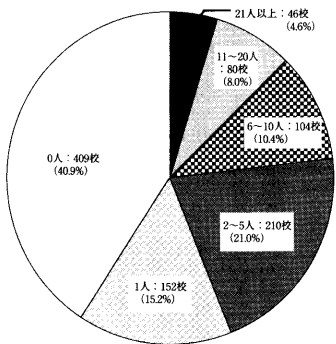


図2 障害学生が在籍する学校数



は左記の通り。

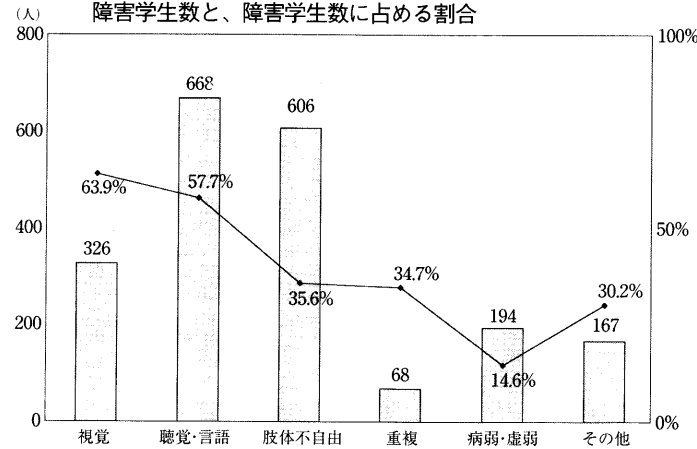
■大学等における障害学生数<sup>②</sup>

- ・大学等における障害学生の在籍数は五、四四四人で、学校基本調査（文部科学省）における全学生数に対する在籍率は〇・一六％。<sup>③</sup>
- ・障害学生が在籍する学校数は五九二二校で回答校全体の五九・一％、在籍していないと回答した学校数は四〇九校で回答校全体の四〇・九％。

・障害学生のうち、大学等に支援の申し出があり、それに対して大学等が何らかの支援を行っている（予定を含む）障害学生の数は二、〇二九人で、障害学生総数に占める割合は三七・三％（図1、2、3）。

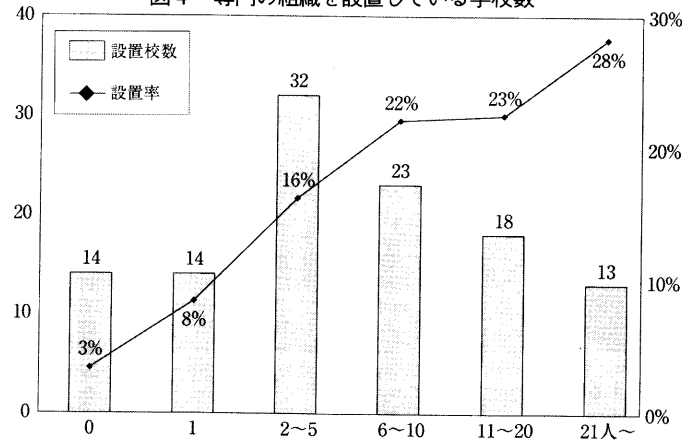
■ 大学等における障害学生の修学支援に関する体制等  
 ・ 障害学生の修学支援に関する委員会やセンターなどの専門の組織を設置していると回答した大学等は二一四校、回答校全体の二一・四％。

図3 支援の申し出があり、大学等が何らかの支援を行っている障害学生数と、障害学生数に占める割合



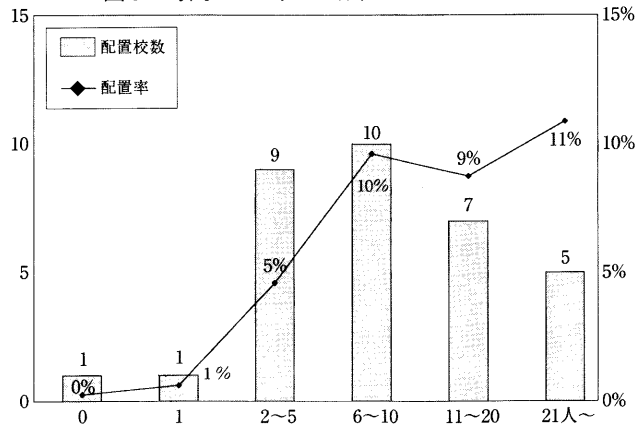
・ 障害学生の修学支援に関わるコーディネイト業務<sup>④</sup>を専門に行っているスタッフを配置していると回答した学校数は三三校、回答校全体の三・三％。  
 ・ 授業保障<sup>⑤</sup>を行っている<sup>⑤</sup>と回答した大学等は二〇六校で、回答校全体の二〇・六％。  
 障害学生支援に関わる教員に対する研修などのFD<sup>⑥</sup>活動への展開を図っている大学等は三一校で、回答校全体の三・一％(図4、5)。

図4 専門の組織を設置している学校数



■ 障害学生に対する修学支援環境の整備が急務  
 右記の通り、障害学生の在籍率は〇・一六％で、約四割の大学等では障害学生は在籍していない。また、障害学生の修学支援に関する体制では、専門の組織の設置率、専門のスタッフの配置率、授業保障・FD活

図5 専門のスタッフを配置している学校数



動の実施率などで三割を下回っている。今後、障害学生の在籍状況等に応じて大学等での障害学生の修学支援体制の更なる整備が必要といえる。

機構は、平成一六年度より障害学生の修学支援事業をスタートし、本調査をはじめとした大学等における障害学生の修

学支援事業に取り組んでいる。平成一七年八月には「大学等における障害学生の修学支援の在り方」報告書を公表、本報告書では「必要となる事業」及び「中長期的に必要となる事業」として四つの事業(大学等間ネットワークの構築、障害学生受け入れの促進、支援学生のスキルアップ、大学等における修学支援体制等の構築)を提示した。機構はこれらの事業を通じて、障害学生受け入れの促進、教育の機会均等、高等教育のユニバーサル・アクセスの実現を目指す。

※この他、本調査では授業保障の実施状況や施設・設備の整備状況など、障害学生の修学支援に関する実態を幅広く調査している。本調査の詳細は左記ホームページで。  
[http://www.jasso.go.jp/fokubetsu\\_shien/choosa05.html](http://www.jasso.go.jp/fokubetsu_shien/choosa05.html)

※「大学等における障害学生の修学支援の在り方」報告書は左記ホームページで。  
[http://www.jasso.go.jp/fokubetsu\\_shien/arkata.html](http://www.jasso.go.jp/fokubetsu_shien/arkata.html)

【注】(1) 平成一八年一月一八日現在、日本学生支援機構調べ。「国の行政機関」とは、各省庁、独立行政法人のことを指す。

(2) 平成一七年五月一日現在の在籍数。

(3) 「学校基本調査(平成一七年度速報)(文部科学省)」における数値を用いて算出した参考値。詳細は報告書(〇、一二頁参照)。

(4) コーディネイト業務・障害学生と支援する学生などのマッチング、障害学生からの相談対応など。

(5) 授業保障・ノートテイク(要約筆記)、手話通訳、音訳、点訳、など。

(6) FD: Faculty Developmentの略。